

第4回大刀洗町自分ごと化会議 議事要旨

日時	2022年2月19日(土) 13時00分から16時00分
場所	大刀洗町役場3階大会議室
会議参加者	出席者数9名(欠席者数15名)
大刀洗町	町長、副町長、教育長 事務局：総務課 説明担当課：住民課
コーディネーター	荒井英明(神奈川県工業内陸団地事務局長、構想日本特別研究員)
ナビゲーター	吉川昇(本郷ふれあいセンターMEGURU STATIONボランティアスタッフ)
ナビゲーター補助	榎田豊久(アマタ 経営戦略補佐 KOUプロジェクトマネージャー) 高田大輔(アマタ 大刀洗現地事務所常駐員)

概要

1. 開会
2. 全体会
 - ・答申書(案)を用いた振り返り
 - ・MEGURU STATIONを見学した参加者の感想共有
3. 全体説明
 - ・話題提供「MEGURU STATIONに関わって感じたこと」(吉川氏より)
 - ・協議のポイント提示
 - ・グループワークの進め方
4. グループ協議
 - ・テーマにもとづく話し合い
 - ・グループ協議結果の全体共有
 - ・本日の協議結果の個別発表・共有
5. 全体会
 - ・自分ごと化会議を通しての気づきや感想などの共有
6. 講評
 - ・構想日本代表 加藤
 - ・中山町長

会議内容

1. 開会

資料確認、コーディネーター紹介（総務課 今林）

- コーディネーターは前回に引き続き荒井氏、ナビゲーターは本郷ふれあいセンターでのMEGURU STATION（以下、MEGURU）ボランティアスタッフの吉川氏。

2. 全体会

会議進行の説明（コーディネーター 荒井）

- これまで参加者の皆さんが話し合ってきたこと、改善提案シートに記入いただいたことを、町長への答申書の案としてまとめた。この内容に対する改善に向けたご意見を後程お聞かせいただく。
- 話題提供が終わり次第、グループ協議に移る。
- グループ協議結果を全体共有した後に、全体会に戻る。

答申書（案）の説明とこれまでの振り返り（コーディネーター 荒井）

- 答申書（案）の1ページ目には、ごみを減らすために話し合った経緯や、これまで話し合ってきたことの大枠をまとめた文章を記入している。
- 5ページ目以降は、より具体的な提案内容を記載している。皆さんが話し合う中で出てきた意見を集約したもの。
 - 提案1：「自分にとってはごみでも、誰かにとって宝となるもの」を巡らせることのできる「ごみの地産地消」の輪をつくる。
 - 提案2：「本当のごみ」以外を、ごみではなく「資源」にするために、コミュニティで一丸となって分別や資源回収に取り組む。その活動を通して資源だけでなく人も取り残さないまちをつくる。
 - 提案3：ごみについて話し合ったり、ごみに関する情報を発信・共有していくことで、町全体にごみに関する意識を浸透させ、育てていく。
 - 提案4：必ずごみは出る。一人ひとりが3Rに取り組みながら、コミュニティに広げ、そのコミュニティを大きく町全体に広げていくことで、3R+Cを大きな成果につなげていく。
- これまでの会議で、直接的に「こうやってごみを減らそう」という意見も数多くでた。そこからさらに一歩踏み込んだコミュニティとしての取り組みや、コミュニティ自体を大きく広げようという意見も数多く出ていたので、提案1～4にそれぞれ取りまとめて記載している。
- 3R+Cに関する話題提供でMEGURUの話があった。こうしたコミュニティの場は、そこにインセンティブがあれば自分ももっと参加しようという気持ちになる。どのようなメリット・インセンティブがあれば、もっとごみ減量のコミュニティが活性化するかも考えていきたい。

MEGURUを見学した参加者の感想共有

- 見るだけでなく、体験もできたので楽しめた。子どもを連れて行けば、子どもたちも喜びそうだった。ごみの分別についてもいい勉強になりそうだ。
- ボランティアスタッフが丁寧に説明してくれて勉強になった。私も近くにあったら利用したいと思う。見学会以外でも、本郷地区の方からもMEGURUの話を聞く機会もあった。MEGURUには、

ごみ分別に関する意識を高める効果がありそうだと感じた。

- 資源収集ボックスが、細かくきれいに分かれていて、分別の仕方もわかりやすく、これならば持ち込みやすいと感じた。生ごみ処理機の量や投入可能な種類の制限など、地域での事業化を考えると課題もあると感じた。
- 「3R+C」の「+C」の部分が、最初は漠然としていたが、MEGURUを見て、こういうことかとわかった気がした。ボックスの中身が見えることもあり、どういうものを持ち込んでいいのかがわかりやすくて良いと思った。
- ベンチに座って数人が集まって話している様子を見て、これは「コミュニティ」の一つだなと思った。細かい分類がされていて、資源の種類によって投入口の形や大きさが分かれているので、自分が分別しているという実感が持てて面白いと感じた。自分の住む地域にあれば行きたいと思った。

3. 全体説明

話題提供「MEGURUに関わって感じたこと」(吉川氏)

- MEGURUに関わろうと思った動機
 - 地球温暖化防止推進委員をやっていたこともあり、環境に関して興味があった。
 - ごみの分別を細かくやろうとすると、中々わかりづらい。どうにかできないかと思っていた。朝倉の「まぜればごみ、分ければ資源」という考えを、大刀洗にも広めたい。
 - 生ごみを処理してメタンガスと液肥化する機械に興味があった。
 - サポート（ごみ処理場）の稼働率が約9割。通常は7割程度だと聞いている。非常に厳しい。
- 関わって感じたこと
 - 町とアマタがMEGURUに関わった人たちに調査を行ったところ、9割以上の方が「MEGURUを続けて欲しい」と回答があったと聞いた。非常に多い。
 - MEGURUをきっかけに、置いている薪ストーブの周りにみんなが集まって会話が生まれたりなど、人のつながりができコミュニティがつくられていることと、その大切さを感じた。

話題提供の振り返りと議論のポイント提示（コーディネーター 荒井）

- 10月30日から始まった「ごみを減らすために、わたしにできること」。そこで始まった「3R+C」が、この3か月の間で、皆さんに浸透していきつつある。
- 本質的なテーマは「ごみを減らすために、わたしにできること」。「3R+C」の観点から、理想の大刀洗町を思い浮かべていただき、そこにコミュニティで何ができるかを考えよう。
- そして、その理想のために「自分に何ができるか」を考えたい。本郷ではMEGURUの社会実験が始まっている。例えば「自分の住む地域にMEGURUがあったら、自分に何ができるだろうか」。
- この会議で話し合ったことを、子どもたちや、将来の大刀洗町の住民に、どうやって伝えていくかも考えよう。
- ごみを減らすための活動「3R+C」に、どのようなメリット・インセンティブがあれば、関わろうと思うか。どうすれば地域コミュニティに人が集まるのかという観点も持ちながら、意見交換していただきたい。

4. グループ協議

グループ協議結果共有

Aグループ

- コミュニティについて話し合った。
 - 大刀洗町では横のつながりが薄くなってきている。ごみステーションでつながりができると良い。
 - ごみを持ってくるのも、家族の中の誰か一人の決まった人ではなく、家族で一緒に出しに集まると、子どもや若い世代を含めて、横のつながりを作っていくことができる。
 - ステーションに、皆で座ってお茶をしやすい環境をつくったり、野菜を持ち寄ってワンコイン販売所を設けたり、子どもの制服などの譲り合いの場を開くなど。
 - 定期的に校区ごとの特色を発表しあう場を開き、校区内外のつながりを持つ。

Bグループ

- ごみを持ち寄ったときのメリットについて話し合った。
 - 一度に出すごみの量が減るだけありがたい。
 - 無料でいつでもごみを出せる場所が近くにあるだけでもメリット。
 - 本郷のMEGURUだけでなく、もっとそういう場所が増えると皆がメリットを感じられる。
 - ごみを持っていったら、ごみ袋をもらえるようにする。
 - MEGURUのような場所に参加した人は消防団を免除するというのも一つの手。
- この会議で話し合ったことや、地域のコミュニティをどうやって伝えていく／続けていくかについて話し合った。
 - 子どもの活動の拠点に、大人の交流ができてくれば、将来につなげていけるのではないか。

コーディネーターによる振り返り

- 横のつながりが希薄になっていると意見があった。かつての横のつながりのコミュニティが薄くなったのはなぜだろうか？ガチガチの活動をする「きついコミュニティ」が嫌で、「ゆるいコミュニティ」なら人が増えてくれるかも知れない。
- MEGURUのような場所が増えると良いという意見があったが、今後増やすとしても、みんなが行きづらい場所では、集まるために車が必要になるなど、気軽さがなくなる。また、運営スタッフの確保についても、今後も続く課題だ。
- 家族みんなを出掛けて、集まってそこにいる人々と話すことのできるものが理想のコミュニティなのかも知れない。
- 自分ごと化会議は今日で終わりだが、テーマであるごみ問題は、今後も残る課題だと思う。これからも参加者の皆さんには、ごみやコミュニティのことを継続して考えていって欲しい。

5. 全体会

自分ごと化会議を通しての気づきや感想などの共有

- 会を追うごとに、ごみに対する自分の考えが高まって行った。生ごみの水切りについても、生ごみをまとめたあと、すぐにごみ袋に入れず、シンクに吊るしてしばらく置いておけば水切りも苦にならないと気付いた。これからも分別や周りのごみについて語るなど、急に大きなことはできなくても、まずは自分の周りのことから取り組んで行きたい。
- 参加できてうれしい。最初は「集積所に皆が持っていくのではなく、家の前で戸別回収をして欲しい」と思っていたが、皆と話し合ったり話題提供を受けたりする中で、自分たち一人ひとりがそれぞれにできることを考えて、コミュニティで取り組めることもあると気付いた。
一方で、コミュニティに取り残される人がいることも事実だ。自分では遠くまで移動できない人や、ルールを守らない人もいる。誰一人取り残されないようなやり方は難しいと思うが、このような話し合いが続いていって、問題や不満を解消できるといいと思う。
大刀洗町に住み始めて2年、自分ごと化会議に参加したことをきっかけに地域へ目を向けるようになって、初めて町民になれたと感じた。今後、何か地域でのイベントごとがあったら、積極的に関わっていききたい。
- 皆の話や話題提供で、色んなことを知れた。これまで話してきたことを、家族に話したり、自らの活動を通して周囲へ伝えていこうと思う。
- 前回欠席したため、MEGURUのことがあまりわからず困った部分もあったが、全体を通してみれば、様々な世代の意見を聞くことができたし、自身もごみについて改めて考え、学ぶことができた。
- 最初は「ごみの話かよ」と思ったが、関心は高まったと思う。今まで参加しなくてもいいやと思っていた地域のことや、近所の人困っていることがあれば、自分も何かやって行こうと、町のことを受け入れる土壌が自分の中にできた。行政には、会議の中で出たアイデアを活かしていただきたいと思っている。
- ごみに対する意識が変わり、分別をしっかりとやろうという思いが生まれた。まずは自分がやってみようとしてみたら、子どもが私の様子に興味を持ち、分別に自ら取り組んでくれるようになった。自分の家庭内のことだが、大きな変化だと感じている。
自分ごと化会議に参加しなければ、ここにいる他の参加者とは会うことはなかっただろう。出会え、話すことができ、話すことができ、楽しかった。
- 「3R」は知っていたが、「3R+C」とは何だろうかと思った。だが会議に参加する一環でMEGURUを見学し、そこに集まっていた方々と話をしたとき、ゆっくりとした時間が流れていて、こういう場所もいいなと思った。生ごみの液肥化や、資源として活用し、それを事業化するなどの考えは学びになった。会議全体を通して勉強になった。
- 色々な意見を聞いてよかった。「ごみ問題」の話は、最初は全然ついていけなかったが、今はごみの分別や、必要なものだけ買う、できるものはリサイクルに回すなど、会議の中で出た話を家庭で取り組んでいる。缶はつぶして出すと処理のために圧縮しにくくなってしまふなど、他にも会議に出なければ知らなかったことを知ることができた。自分から色々なことに出向かないと、何か情報を知ることができないなと思った。
- ごみを分別するのは手間がかかる。その手間には意味があるのだと学べた。ごみについての話だったが、今まであまり気に留めなかった大刀洗町のことに興味を持つようになった。

「ごみ問題」が入り口だったが、ごみを出すときに地域の方と交流を持つこともできるし、声をかけあって周囲にある課題や問題を知ることにつながるきっかけにもなる。自分ごと化会議に参加して知ったこと、思ったことを、周りに伝えて行こうと思う。

コーディネーターによる会議全体の総括

- 自分ごと化会議が始まる前にごみ問題を解決するために、「3R」だけでなく「+C」（地域の力）で解決していきたいという「3R+C」という町の行政の考えを聞いたとき、難しいのではないかと思った。ところが、皆さんのごみに対する課題や意見を聞いていく中で、良い投げかけになったと感じた。
- 自分ごと化会議で話し合ってきたごみ問題解決策の一つに近いものが、会議を進めていく中で、一つの地域で実験として動きだした。これは素晴らしいことで、会議に関わった皆さんが、ごみについて生活の中で感じる本音の意見を交換できたこと、それを後ろ向きにせず、前向きに議論できた成果だと思う。
- 参加者の皆さんには、会議で話し合ったことを、家族や周囲の方々に広めていただきつつ、大刀洗町がより良いまちになっていくよう、今後も見守り続けていただきたいと思っている。

6. 講評

構想日本 加藤代表より講評

大刀洗町の自分ごと化会議は8年と長く続いており、会議の内容も非常に良い。構想日本は、全国でこれまで160回ほど自分ごと化会議を行っているが、その中でも大刀洗町は、自分ごと化会議のトップランナーと言える存在だ。

MEGURUも、ごみを始まりに人が集まり、それをきっかけに様々なことに発展していける良い取り組みだと思う。ごみ問題について語り合うのために良いヒントになる参考材料だと思い、構想日本が大刀洗町にMEGURUを紹介した。しかしそのことで、皆さんの話し合う内容が、MEGURUに引っ張られてしまったかも知れないという思いがあり、その点を構想日本として反省している。本来ならもっと様々な方向の意見が生まれ、議論が広がっていったかも知れない。次回以降の自分ごと化会議では、今回のMEGURUのような新しい議論の材料を提供しつつ、議論はそれに引っ張られず、より広く自由にできるよう心掛けて進めていきたい。

「ごみ問題」というテーマは、素晴らしいテーマだったと思う。ごみは人間が生活する中で必ず出す身近なもので、私たちは全員、ごみやCO₂を出しながら生活している。ごみや温暖化などの環境問題は、私たち全員が「被害者」であるとともに、何万分の1、何千万分の1、何億分の1の「加害者」だという言い方もできる。

例えば福島原発事故では、東京などで東電の電気を使っている私たちは何千万分の1の「加害者」でもある。そういった認識を持たないといけない。地球温暖化の影響でどんどん暑くなっていることや、温暖化に起因する異常気象によって災害が起こったならば、そのとき私たちは何億分の1の「加害者」なのだ。

何か問題が起こったとき、つい真っ先に自分たちは被害を受けているという気持ちが出てきてしまうが、同時に「健全な加害者意識」を持つことが、こういったことを「自分ごと」として考えることにつながり、今の時代において非常に重要なことだと思う。

今期の自分ごと化会議はこれで終了となるが、参加者の皆さんにとって、これが終わりではなく始ま

りだと思う。会議が終わってからも、ごみ問題について考え、話し合うことを続けて欲しい。この場であったことを、家庭、学校や職場など様々な場所で広め、話し合う中で何か改善できることがあれば、町やアマタの方々に伝え、MEGURUなどを活用していく。そうすれば、大刀洗町をさらに良いまちにしていけることができると思う。

中山町長より講評

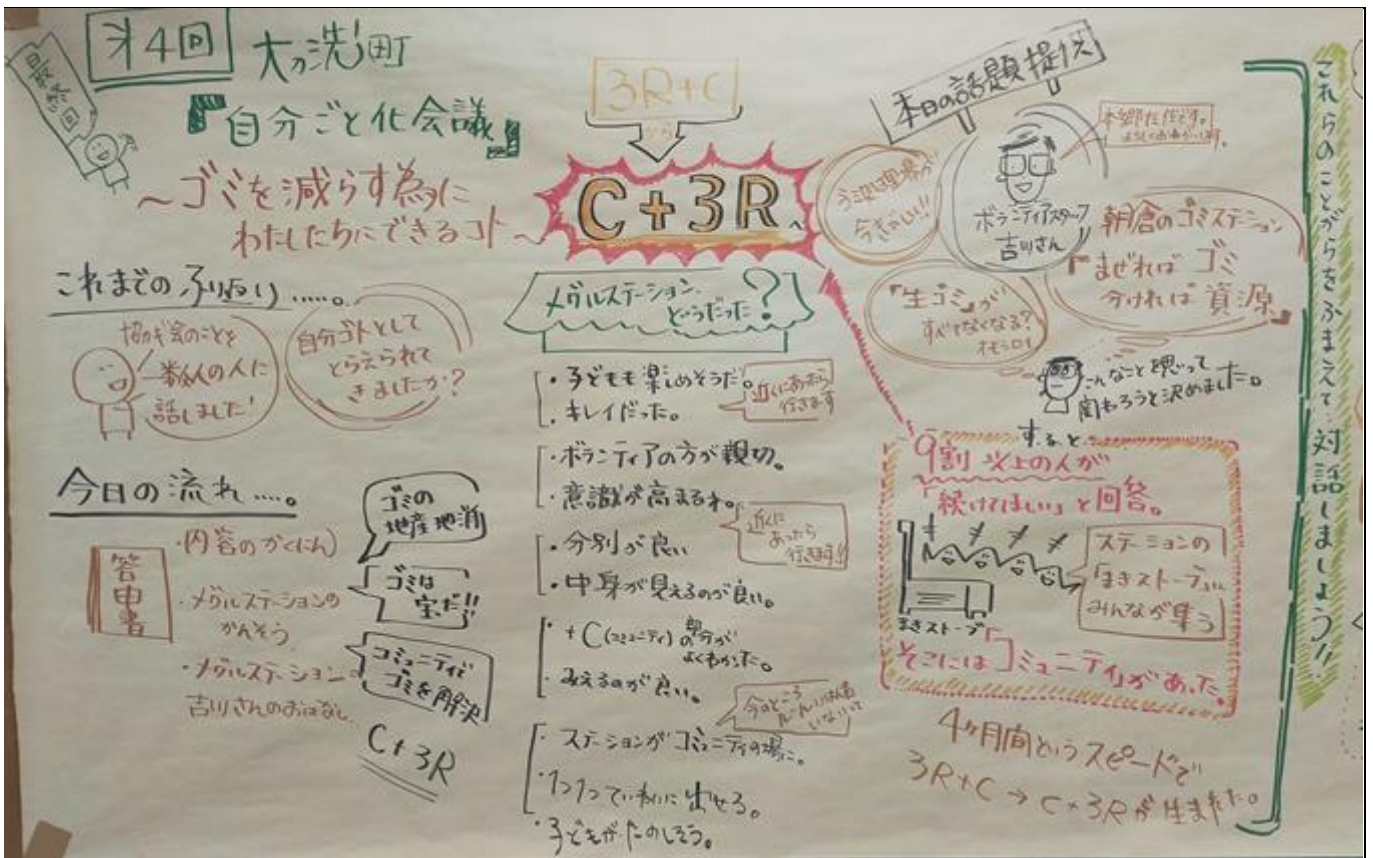
皆さんの議論を聞いていて、大刀洗町はこれから、もっといい町になると思えた。皆さまのご意見や、これからいただく答申書、加藤代表の講評を踏まえ、行政としてごみ問題対策と地域活性化に取り組んでいきたい。

大刀洗町の行政職員は90人しかいない。職員がどれだけ考えても、90人以上の多様性は生まれにくい。こうして住民の皆さまと対話していくことで、大刀洗町と地域を良くしていくことができるのだと思っている。参加者の皆さまは、今後とも、まちのこと、地域のことを自分ごととして考え、共に行動して行ってほしいと願っている。

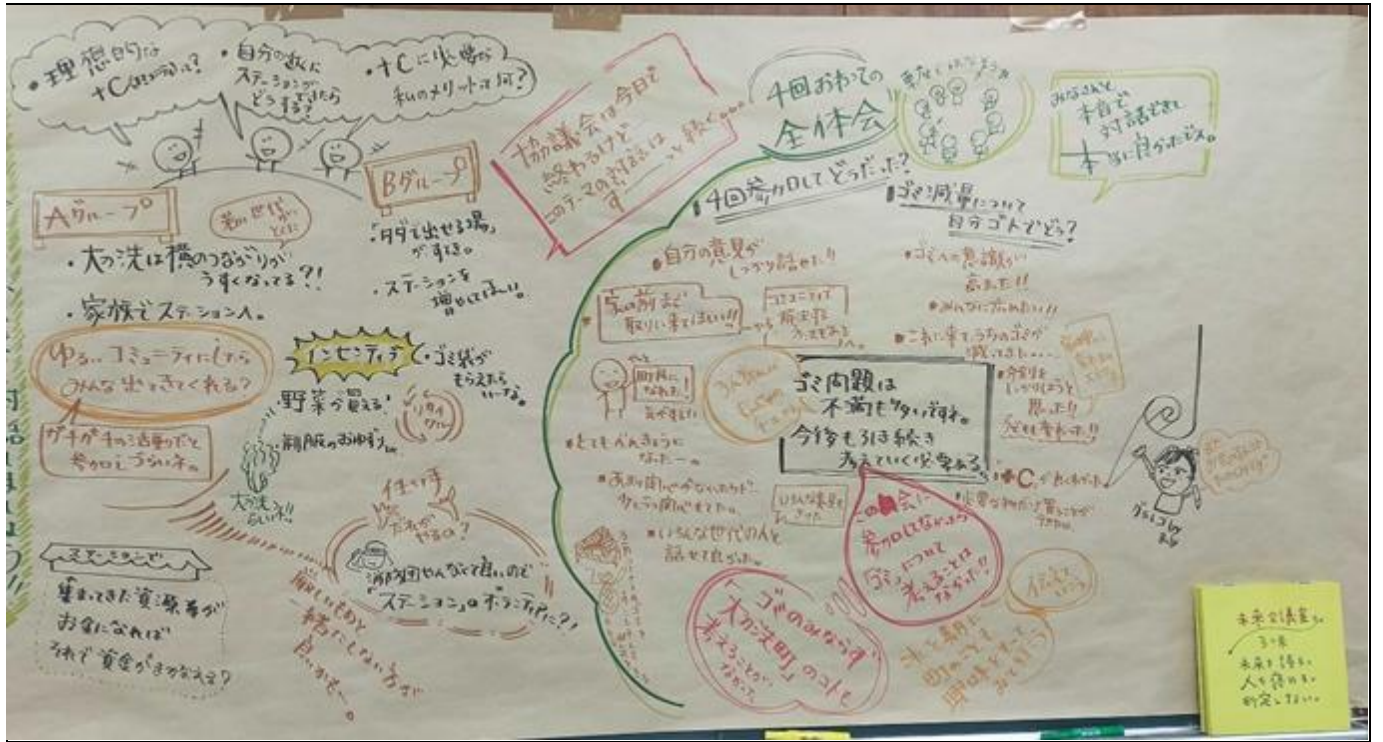
自分ごと化会議（住民協議会）には、OB・OG会がある。ぜひ、今期の参加者の皆さまも入っていただき、ご活躍いただけるとうれしい。自分ごと化会議へのご参加ありがとうございました。

グラフィックレコード写真

グラフィックレコード1枚目



グラフィックレコード2枚目



グラフィックレコード全体

